生徒向け校長通信

あうん

教師と生徒・保護者があうんの呼吸で教育ができることを願って‥‥

第　19　号
令和３年12月21日

贈り物をやりとりするすべての人の中で、この二人のような人たちこそ、最も賢い人たちなのです。世界中のどこであっても、このような人たちが最高の賢者なのです。

オー・ヘンリー『賢者の贈り物』

1ドル87セント。クリスマスを翌日に控え、若妻デラが夫へのプレゼントに費やせるのは、たったそれだけだった。しかし、愛する夫にどうしても世界一の贈り物をしたい。デラは唯一の自慢である髪を売る決心をするが……

（Amazon「本の内容」から転載）

＊本文はネットで公開されている結城浩さんの翻訳を引用させていただいております。

あれは小学２年のクリスマスだった。両親は土木工事の現場に出ていたので、今の時代では考えられないことだが、厳冬期以外は 11 歳年上の高校生の姉を筆頭に姉弟４人で暮らしていた。正月には両親は戻ってくるのだが、クリスマスはそうもいかなかった。当然サンタさんも僕の家に来てくれることはそうそうなかった。ところが、その年だけは枕元に包みが置かれていたのだ。可愛いイラスト入りの本だった。――『クマのバスターはあわてもの』。大きいけどうっかりやのクマのバスターが巻き起こす騒動。もともと本ばかり読んでいた僕だったけれど、自分のものになった新しい本に夢中になり何度も何度も読み返したものだ。

ずいぶん後で知ったことだけど、これは高校生の姉が家の古い本を何度も読んでいる弟をかわいそうに思い、買ってくれたものだった。僕にとっては最高のクリスマスプレゼント。皆さんにとっての想い出のクリスマスプレゼントは何かな？

さて、クリスマスプレゼントの話といえば、誰もがオー・ヘンリーの「賢者の贈り物」をあげるだろう。内容はみんな知っていることと思うが、あらためて説明すると、デラは自分の美しい髪を売って夫の時計用のチェーンを買い、夫のジムは自慢の時計を売って妻のために櫛を買うという話。こんな結果になった二人がなぜ賢者なのか？この物語の最後の部分を見てみよう。

東方の賢者は、ご存知のように、 賢い人たちでした ―― すばらしく賢い人たちだったんです ―― 飼葉桶の中にいる御子に贈り物を運んできたのです。 東方の賢者がクリスマスプレゼントを贈る、という習慣を考え出したのですね。（中略） さて、わたくしはこれまで、つたないながらも、 アパートに住む二人の愚かな子供たちに起こった、平凡な物語をお話してまいりました。 二人は愚かなことに、家の最もすばらしい宝物を互いのために台無しにしてしまったのです。 しかしながら、今日の賢者たちへの最後の言葉として、こう言わせていただきましょう。 贈り物をするすべての人の中で、この二人が最も賢明だったのです。 贈り物をやりとりするすべての人の中で、 この二人のような人たちこそ、最も賢い人たちなのです。 世界中のどこであっても、このような人たちが最高の賢者なのです。 彼らこそ、本当の、東方の賢者なのです。

ここでいう「御子」とはイエス・キリストのこと。東方の賢者たちがキリストの生まれることを察知し、贈り物を捧げたという聖書の記述を下敷きにしてる。ちなみに賢者は英語では magi であり、このエピソードからマジック magic という言葉が生まれたのだという。

それはともかく、デラとジムは相手を理解し、深く愛しているからこそ、一番ふさわしいものを選んだ。そして、自分の大切なものでさえ手放すことを厭わなかった。相手を心から思っていることが一番伝わる贈り物だったのではないのだろうか。そのことがお互いにわかりあえたからこそ、この時点では愚かな行為のように思えるけれど、二人の未来のためには最も賢い選択だったと言えるのだと思う。

姉からもらった本を何回も読んだ少年は、その後本をたくさん読んで国語教師となった。僕の姉も賢者であった。僕はもっと感謝しなくちゃいけないな。